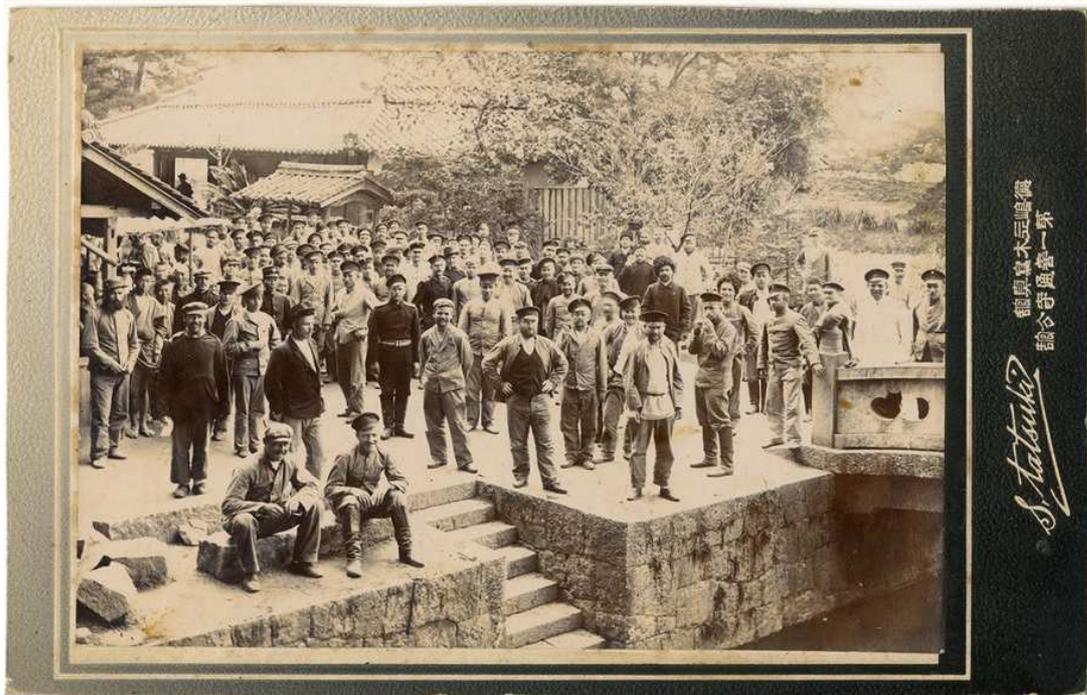


【講演のご案内～あなたの場所でも話したい】

111年の時を超えて

～日露戦争時の写真に見る日露友好の記憶～

これまで
100回以上
講演させて
いただきました！



(左)ロシアからメールで突然送られてきた、日露戦争時のロシア兵俘虜の集合写真。

(右)戦時中にも関わらず、日露兵士のツーショット写真。のちに歴史的な大発見の一枚だったことが判明する。

2016年1月のある日、徳島の立木写真館に、突然ロシアからメールで送られて来た数枚の写真。それは日露戦争時（1904～05年）に香川県善通寺で撮影された、ロシア兵俘虜（ふりょ）たちの写真だった……。

台紙にあったネームから、立木写真館の撮影であることが判明。その後、調査を進める中で、当時俘虜たちは想像以上の人道的な扱いを受け、近隣の住民や日本兵と交流していたことも分かって来る……。

ロシア兵のひ孫・アリョーナは、なぜ立木写真館を訪れたのか？ 撮影者のひ孫・立木さとみは、なぜロシアへ行ったのか？

ドトーのように展開する奇跡のストーリーを、たくさんの写真を使ってお話しします。ワクワクドキドキ、お楽しみ下さい。



たつき
立木さとみ

立木写真館1883 代表
徳島ソフィア会 会長

1883（明治16）年創業の徳島市・立木写真館に、5世代目として1960年に生まれる。祖母・香都子は1980年NHK朝ドラ「なっちゃんの写真館」のモデル。上智大学文学部仏文科卒業後、マドラ出版入社。天野祐吉・島森路子両氏の元で、月刊誌「広告批評」の編集・「広告学校」の企画運営の他、単行本の編集やイベント企画にも携わる。1993年、父の急逝に伴い帰郷し、実家の立木写真館に入社。1999年、徳島青年会議所で四国初の女性理事長を務め、以後、行政・企業・団体の各種委員も歴任する。2006年、写真集『いろどり～おばあちゃんたちの葉っぱビジネス』を自費出版。現在は個人事務所「立木写真館1883」代表として、写真のチカラや大切さについての講演・執筆などを中心に活動している。

●国と国は戦争をしていますが、個人的には憎しみを持ってはいない……

写真の発見とともに、鮮やかによみがえる戦時下の日露友好の記憶。本当にあったミラクルな実話を、私の感動体験そのままにお伝えいたします。1世紀の時間旅行をご一緒に！

連絡先＝立木さとみ携帯：090-3786-7531／e-mail：satomi-p@mvc.biglobe.ne.jp